

先端技術×文化による新たな価値創造について

【担当省庁】文部科学省、経済産業省

文化財の多面的な活用に向けて、文化芸術と最先端技術の融合により文化財を修復・復元するとともに、多面的な活用を図る拠点を、文化・伝統産業と先端技術の融合が可能な「関西文化学術研究都市」に設置し、アジアなど海外も含めた最先端技術を活用した文化財の保存、修復・復元、活用の日本拠点(ナショナルセンター)として位置付けていただきたい。

また、AR・VR等の「先端技術を活用した日本文化の魅力発信事業」について、地域に根ざす社寺等の文化資源を対象とする等、文化財の保存等と多面的な活用が実施できる支援制度としていただきたい。

なお、京都府ではコンテンツ産業の新たな展開を図るため、京都市域にAR・VR産業の研究及び人材育成の拠点を形成しようとしているが、こうしたAR・VRを始めとするコンテンツの多面的活用・高付加価値化を図るアート&テクノロジー分野の産業化を促進する支援制度を創設いただきたい。

【現状・課題等】

- 平成29年12月に策定された「文化経済戦略」において、クローン文化財(※)について、「大学と自治体、美術館、産業界等による産学官連携基盤を活かしたビジネス展開を図るとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムにおける活用をはじめ、観光や産業、教育等多様な分野における活用を推進」することとされている。
- 有形・無形の文化資源(文化資料・文化的財)等をデジタル化して記録、保存するデジタルアーカイブが進んでいるが、これを効果的にアウトプットする方法として、ARやVRを活用したコンテンツや、複製技術等を活用した展示物を作成することで、現物では不可能な触れられる展示の実現や実物の破損、劣化防止、保存に繋がる。
- また、文化財の修復等には、先端技術だけでは対応できない、職人の技術も必要であり、千年以上の伝統と進取の気質を兼ね備えた京都はその拠点としてふさわしい。
(※)：現代のデジタル画像処理や印刷技術と芸術家による伝統技法と感性を融合させ、技法、素材、文化的背景など、芸術のDNAに至るまで復元された文化財

京都府 の担当課	商工労働観光部 ものづくり振興課(075-414-4852) 文化学術研究都市推進課(075-414-4377) 文化スポーツ部 文化政策室(075-414-4215)
-------------	--

【国の事業等】

- 日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信【文化庁】20.6億円(新規)
 概要：訪日外国人旅行者の旅前の情報発信の充実や地域での体験滞在の満足度の向上や再訪へ結びつけるため、先端技術を駆使して日本の歴史・芸術・伝統的な文化財や風景など発信する事業を、観光施策と連携させつつ実施
 事業内容：旅行前の情報収集段階、訪日観光客が必ず利用する空港等などの主要インフラ、必ず訪れる主要な観光地において、文化財を始めとする日本固有の文化資源を先端技術を駆使した効果的な発信を行い、消費の拡大と体験滞在の満足度向上を図る。

【京都府の取組】

- 京都クロスメディアパーク推進事業費 77,400千円
 映像を核としたクロスメディア産業の育成と府内への波及を図るため、産学公で設置した「京都クロスメディアパーク推進会議(※)」のもと、拠点の整備、人材育成、国際ネットワークの形成、府内に波及効果をもたらす事業を総合的に展開する。

(※)京都クロスメディアパーク推進会議

平成30年6月に「京都府XR活用協議会」を発足。同協議会を契機として、米国のEON REALITY社及び京都企業等とのアライアンスが発足し、現在、AR・VR開発に係る人材育成拠点を東映京都撮影所内に開設する予定である。今後、同協議会のメンバーと運営協力をを行いながら、人材育成・コンテンツ提携・技術連携を促進する。

■研究機関の取組

けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)では、高精度モーションキャプチャー、ヘッドマウントディスプレイ等を整備し、VR等の開発・実証も可能な「けいはんなロボット技術センター」を新たに開設
 丹後知恵のものづくりパークでは、中小企業の人材育成のため全国初の取組としてVRを活用した工作機械操作研修を実施するなど、今後の人材不足対策にVRを活用